

## ガミラスコンバット 04 Shattered Spaces 【第一稿】

遠野秋彦

### プロローグ ホシノカケラ

この大陸間ガミラス戦争は、殲滅されたオルタリア残党の陰謀だった。

そのことを伝えようとヤマキは基地司令にところに走った。

司令室に司令官はいた。

「よく来たな特務少尉。今、君を呼びにやろうとしていたところだ」

「私を？」

「搭乗員から『アニキ』と慕われるザルツ人ヤマキ特務少尉。君とガビウスは 15 ヶ月前、ガミラス上空で撃墜されたことになっている。あらゆる記録はヤマト襲来の前に混乱していた。味方の基地までたどり着いた君を自分の編隊員だと証明したのはガビウスの言葉だ。本当に？」

基地司令がヤマキに銃を向けた。

「そのガビウスはスパイだった。本当は、君は何者なのだ？ 証明できまい？ 自分の軍歴を」

その瞬間にヤマキは理解した。

この基地司令も、オルタリア残党の息が掛かっている。

次の瞬間電源が落ちて司令室は真っ暗になった。

保険を掛けておいて良かった。

ヤマキは、混乱する司令室から脱出した。

なに、GSAF のエースパイロットとなったヤマキにとって、いまやガミラスにも仲間が多い。

この基地指令から脱出できれば何とかなる。

ヤマキは、格納庫に忍び込んだ。

「これはホークか！」

格納庫内にはガミラスホーク 1 号の巨体が鎮座していた。

練習機として使用されていた特殊機体だが、武装して戦闘に使われることもある。

ヤマキは機体を調べた。燃料は入っていたが武装は何もなかった。

「だが、全部盗むのは少々荷が重いな。そうだ。ガミラスホーク 1号はα号、β号、γ号の3機に分離できるはずだ。β号だけ頂こう」

ヤマキはβ号を操縦して基地を離陸した。

「脱走兵が離陸したぞ!」

ヤマキは超低空で飛行し、追跡の敵機を振り切った。

## 第1章 Mission 01 張り子の基地 (SITTING DUCK)

2機の戦闘機がもつれあいながら不時着した。

空戦は相打ちだった。

双方の射撃は正確であり、同時に双方が致命傷を受けたのだ。

操縦していたパイロットはそれぞれ脱出した。

それほど遠い場所ではないので、2人はそれぞれを視認した。

「よお」とガミラス人もパイロットが言った。「おまえ強いな。これほど強い相手と戦ったのははじめてだ」

「俺もだ」地球人のパイロット山木も答えた。「あの失速ターンは凄かった」

「次は負けないぜ」

「それはこちらの台詞だ」

「だが、今のままでは再戦は難しい」

「なぜだ」

「ガミラスには地球人を憎んでいる者は多い。見つかるとリンチされて殺されかねない。殺されないまでも腕がダメになったら操縦は絶望的だ」

「そうか。だが覚悟はしている」

「そうだ。おまえ、俺の僚機ってことにして付いてこい」

「はあ?」

「ザルツ人の僚機が何機も落ちた。生きてはいまい。そのうちの1人とということにするんだ」

「それで平気なのか?」

「人種のるつぼ、ガミラスを舐めるなよ。みんな、異民族の顔などちゃんと識別できていないが、可能になる見込みも無い」

「なぜだ?」

「人種が多すぎるからだ」

「なるほど」

「ともかく来い。地球人嫌いの連中からは俺が守ってやる」

2人は山を降りた。

ガビウスは中隊長だったので、人家を見つけると電話で連絡を取った。

迎いの輸送車が来て、ガビウスと山木はガビウスの所属する戦闘機基地に向かった。

そこで、山木はガビウス中隊のガビウス・セブン。ヤマキ特務少尉ということにされた。

すぐに辞令が発行された。

僚機が全て墜ちたので、ヤマキはガビウス中隊の2番機、ガビウス・ツーに繰り上げになったのだ。

この辞令は混乱の最中に発行されたもので、ヤマキの正体は詮索されなかった。

しかし、この辞令はヤマキが本物のザルツ人ガミラス兵であるという証明になった。

状況が一段落したとき、宇宙戦艦ヤマトは既にイスカンドルを出航し、地球への帰路にあった。

ヤマキがヤマトに合流できる見込みは無かった。

だから、ヤマキは飛行任務に打ち込んだ。

ガミラス機であっても、戦闘機を操縦できることはヤマキの喜びだったからだ。

上司となったガビウスも良い奴だった。

片翼で帰還したこともあることから、片翼のガビウスと呼ばれることもある彼は、割と人望もあり、ヤマキは安全に過ごすことができた。

新しく政権を掌握したヒスも、根は善人であり、ガミラスの状況は改善

しつつあった。

状況が変化したのは、ガミラスに星のカケラが落下し始めた時だった。

633 工区と第 2 バレラスの破壊によって、多くの巨大なデブリが宇宙に散乱した。

それらの多くは、不安定な周回軌道に乗ることになったが、数ヶ月後から順次落下を始めたのだ。

それはデスラーを排した平和ムードのガミラスに水を差す事件だった。

ヒスは破片迎撃用のデスラー砲の砲台ストーンヘッドを建設させて、破片の落下に備えた。

だが、破片の迎撃は、迎撃できないほど多くの細かい破片を発生させるだけだった。

人々は、ガミシーズの災厄と呼び、破片の落下を怖れた。

更に悪いことにガミラスは空洞惑星だ。

天井が存在する地域と、天井が存在しない地域では被害が大きく違った。

たとえば、ガミラス北方のガメリアは被害が少なかったが、隣接するガストバキアは破滅的な大損害を発生させた。天井の有無の差だった。ガストバキアは、ガメリアに武力侵攻して戦争を発生させた。

そのことに、中央政府は対応できなかった。こちらもまた、戦争状態にあったからだ。

中央政府は、独裁体制の打破を叫んで自由ガミジアを名乗っていたが、結局ストーンヘッドのデスラー砲で威圧する軍事国家と見なされていた。

それに対する反乱軍上がりの独立国家連合体は、連合空軍 GSAF を設立し対抗したが負けつつあった。

ガビウス中隊は、GSAF に参加し、ヤマキもそれに付いていった。

そして、ガビウス本人は負傷し、戦闘機パイロットを引退することになった。

再戦の約束は果たされなかった。

たった 2 人のガビウス中隊はたった 1 人になり、ヤマキがガビウスワンになった。

この戦いに、イスカンドルが介入してくることはなかった。

内政不干渉の原則があるからだと言っていたが、実態はそうでもなかった。

破片の一部はイスカンドルに落下し、そこでも惨事を発生させていたからだ。地殻変動が起き、ダイヤモンド大陸のホワイトキャッスルが海に沈んだとも言われていた。

とても、イスカンドルは他の星の内戦に首を突っ込むゆとりはなかったのだ。

GSAF は北の孤島に追い詰められた。

自由ガミジアの爆撃機編隊が GSAF 最後の基地に迫っていた。

ザルツ人扱いされ、補助的な任務しか与えられていなかったヤマキに迎撃命令が出た。現実問題として、他にはろくなパイロットが残っていなかったからだ。

滑走路から離陸しつつ、ヤマキは振り返った。

この調子だと、これが最後の戦いになるかもしれない。

この基地も見納めかも知れない。

AWACS から通信が入った。

「こちら管制機スカイアイ、聞こえるか？ ザルツ人の君には分からないかも知れないが、空の目という意味だ」

分かってるよ、とヤマキは心の中で突っ込んだ。

「君のコールサインはガビウスワンだな？ 貴機はこちらの管制下に入った。まもなく爆撃機が見える、全機撃墜せよ。今日は俺の誕生日だ。勝利をプレゼントしてくれ！」

気楽なものだ。ヤマキは増速して爆撃機編隊を追撃した。

そこで違和感が発生した。

おかしい。

これまでよりも機数が少ない。

それに護衛に付いている戦闘機は、これまで手こずってきた新鋭機デバツケではない。もっと鈍重な大型の旧式機だった。

ヤマキは理解した。

ここは敵からは遠すぎたのだ。

つまり、航続距離の足りない機体は全て基地で待機。

ここまで来られる爆撃機はたったこれだけ。戦闘機は、航続距離だけは長い大型戦闘機だけということか。

それに対してこちらは真下に基地があって即座に補給ができる。

これは楽勝と言えるかもしれない。

ヤマキは軽く護衛戦闘機をあしらいながら爆撃機にミサイルを撃ち込んだ。

基地の一部への爆撃は許したものの、爆撃機は全て撃墜出来た。

基地に戻ると、GSAF の幹部が総出でヤマキを祝福した。

ここで負けたら GSAF は終わりだ。だが踏みとどまったのだ。事実上、負け続けの GSAF の初勝利と言える。

それをもたらしたのは他ならずガビウスワンのヤマキだった。

肌色の肌を持つザルツ人であることは、この際問題にされなかった。

たとえ誰の力を借りようとも、戦争に負けないことは最重要の問題だったからだ。

この日から、あらゆる主要な作戦の戦闘にヤマキは立つことになった。

だが、相変わらず欠員の僚機は補充されなかった。

たった 1 人のガビウス中隊は今日も 1 人で飛ぶことになる。

## 第 2 章 Mission 12 ストーンヘッド攻撃 (STONEHEAD OFFENSIVE)

デスラー砲装備の砲台ストーンヘッドは、破片迎撃の切り札として建造されたが、今や自由ガミジアが GSAF を圧迫する手段となっていた。

「従って、我々は断固としてストーンヘッドを破壊しなければならん」  
司令官が力説した。

「しかし、敵の最重要施設だ。敵のエース、赤色中隊が出てくるぞ」

それはやっかいだな、とヤマキは思った。赤色中隊の噂は聞いている。  
特に隊長の赤色 13 は強敵らしい。

「その場合は、ガビウスワン、頼んだぞ」

頼まれたヤマキはげんなりした。

ストーンヘッド破壊の対地戦闘と、赤色中隊相手の空戦を同時にやれというのか。

幸い、それらを同時に相手にすることは避けられた。

だが、ストーンヘッド破壊の直後に赤色中隊機 5 機が出現するというタイミングの悪い状況は発生した。

「我々のエースはやつらよりも早い!」と AWACS が戦意を鼓舞するためか通信で叫んでいた。

「やれやれ」とヤマキをコクピットで肩をすくめた。「パイロットの腕でスピードが出れば苦労はしない」

ヤマキは、赤色中隊対策に温存していた長距離対空ミサイルを遠距離で発射した。

ほとんどは外れたが 1 発だけ命中した。

暗号化されていない敵の通信が傍受できた。相当慌てているらしい。

「赤 4、脱出しろ」

「こちら赤 13、赤 4 の脱出を見た者はいるか?」

ストーンヘッドの防衛に間に合わなかったことを悟った敵編隊は撤退していった。

「赤色中隊機、1 機の撃墜を確認した! 我々の完全勝利だ!」と AWACS が叫んでいた。

このときヤマキが撃墜した赤 4 が、赤 13 に常に寄り添うバディであり、愛し合っている女性パイロットであることを、ヤマキは後から知った。赤 4 は私生活でも空中でも常に赤 13 に寄り添い、安全を守っていたという。もしかしたら、ヤマキのミサイルが赤 13 にあたりそうだったので、それを阻止するために自分から当たりに行ったのかもしれない。

しかし、ヤマキはそれ以上のことは思わなかった。

それが戦争だからだ。

だがヤマキは知らなかった。

このとき撃墜した赤 4 は地球の恩人であり、ヤマトのブリーフィングルームで顔を見たこともあるメルダ・ディッツ少尉だったことを。

彼女は、赤色の機体に乗れるという理由で赤色中隊に志願し、赤 13 に惚れた。彼のパーソナルカラーが赤だったからだ。

そのことをもし知っていたら、ヤマキは赤 4 を撃墜出来たのだろうか。誰もそのことを知らない。

### 第 3 章 Mission 17 バレラス包囲戦 (SIEGE OF BARRERAS)

戦争は続き、やがて、圧倒的な強者として 2 人の名前が人々に知られていった。

自由ガミジアの赤色中隊を指揮する天才パイロット、赤色の 13。

そして、GSAF のガビウスワン、ヤマキ特務少尉だった。

2 人が戦って勝った方がこの戦争の勝者になるとまで言われた。

だが、戦争とはそんなものではあるまいとヤマキは思っていた。

自由ガミジアの首都バレラスは包囲されている。

その事実の方が大きいはずだ。

しかし、バレラスに立てこもる敵は多い。

ヤマキには、残存的戦力の殲滅戦への参加が命じられた。

ヤマキは、橋を攻撃し、軍事施設を攻撃し、軍事用の小型船舶を攻撃し、護衛戦闘機を撃ち落とし、繰り返し補給に戻り、最後には首都から脱出しようとする要人が乗るチルトローター機まで撃墜した。

「もし乗っていても恨むなよ、ヒス、ディッツ」ヤマキはミサイルを発射して離陸しようとしているチルトローター機を撃墜した。

まさにバレラス全体が火の海だった。

AWACS がやってきた。

「5 つの機影が接近中。赤色中隊だ！ 彼らはまるで、国の最後を見とどけに来たようだ。決着をつけよう！ ヘリは仲間にまかせろ。戦争を終わらせてくれ！」

ヤマキは即座にバレラスを離れて海上に出た。

敵編隊を迎えるためだ。

だが、赤色中隊はあくまでバレラス上空の制空権の奪還に固執し、戦闘は都市上空に移動した。そのことが更なる惨劇を産んだ。

1機ずつ赤色中隊機は墜ちていき、市街地を破壊炎上させていったのだ。

ヤマキは最後の1機を撃ち落とした。

手強かった。

あれが赤色13に違いない。

だが、ヤマキは勝った。

AWACSが叫んだ。

「撃墜! やったぞ! レーダーから最後の機影が消えた! 5機はガビウスワンが撃墜した。制空権は完全に掌握した」

ヤマキはホッとしてスロットルを戻した。

そして、バレラスの上空をゆっくり旋回し、戦勝の喜びを嘔みしめようとした。

だが、そこに都市は無かった。

破壊の限りを尽くされたバレラスには、音もなく、動くものもなかった。

ヤマキは知った。いま1つの都市が死んだのだ。

#### 第4章 Mission 18 メガラス (Megaras)

ヤマキは除隊を真剣に考えていた。

バレラスの壊滅は、8割ガビウスワンの功績だと言われても、喜べるものではなかった。

都市を丸ごと殲滅した心の傷は大きい。

だが、そうも言っていられなくなった。

自由ガミジアの残党が、第2バレラスの残骸をかき集め、衛星軌道上に巨大要塞を建造中だというのだ。その名を、メガラスという。ストーンヘッドから外して1基だけ持ちこまれたデスラー砲でガミラス星を撃つつもりだ。敵のものになった星などには、もう用はないということか。

「君1人でやれとは言わん。今度こそ申請のあった僚機を付ける。それ

も 11 人だ。どうだ、嬉しかろう?」

そう言われても嬉しくなかった。

付けられた 11 人の僚機はいずれもひよっこで、アヒルの母ちゃんに負けそうだった。

おそらく、戦場では助けになるどころか、足手まといになるだけだろう。

しかし、ヤマキは有り難くそのひよっこを受け入れた。

今回の作戦は、あくまでデスラー砲の破壊が目的だ。

ひよっこであっても、囷になって時間を稼いでくれればヤマキがデスラー砲を破壊する時間を稼げる。

ガビウス中隊はメガラスを目指して離陸した。

メガラスの前には、赤色中隊が待ち構えていた。

しかし、もう赤 4 も赤 13 もいない。

全機、赤く塗った機体に乗っただけのひよっこだった。

これならうちのひよっこにも任せられるな。

すぐに大空戦が発生した。

「ガン・ルイがやられた!」

「ガビウス 12 が撃墜された!」

しかし、ヤマキは 1 機でメガラスに迫った。

ガミラスにとっての真の脅威はデスラー砲だからだ。

AWACS から通信が入った。

「ガビウスワン、デスラー砲は要塞の深部にあると判明した。排気口から爆弾を投下して命中させろ」

「無理だ。そんな小さな穴を上手く爆弾が通り抜けてくれるはずがない。途中で引っかかってしまう」

「だが、他にどうしろと」

「排気口の断面のサイズを教えてくれ」

「30 メートル四方だ」

「なら戦闘機で飛び抜けられるな」

「止めろ、ガビウスワン、無茶だ。ヤマキ、ヤマキ!」

「天使とダンスだ!」

ヤマキは、戦闘機でメガラスの排気口に飛び込んだ。

## エピローグ ZERO

デスラー砲を破壊したヤマキはそのままメガラスを脱出した。

僚機唯一の生き残り、あまり役に立たなかった僚機のガビウス 2 は、はしゃぎながら言っていた。

「俺、基地に恋人がいるんすよ。帰ったらプロポーズしようと思って。花束も買ってあるんです」

その時 AWACS が叫んだ。

「警告、警告。高熱源体接近」

「うわあ!」

ガビウス 2 は一瞬で撃墜された。

「よう、相棒。生きてるか?」

ヤマキの前に出現した機体に乗っていたのは、負傷して戦闘機パイロットを引退したはずのガビウスだった。

「どういうことだ。ガビウス」

「なに、俺は実際にはこの機体に乗っていないのさ。遠隔操作ということだ」

「どこにいる! 衛星軌道のどこかか?」

「俺の実体はもう無いよ。俺の全ては電子化されているんだ。でも、こういうのって無人機というのかな? 有人機というのかな?」

「ガビウスっ!」

「約束だ、決着を付けよう」

「まさかおまえ。そのために GSAF を裏切って自由ガミジア側に行ったんじゃ!」

「その前にこの戦争の真実を教えてやる」

「真実? 真実とはいったいなんだ?」

「デスラー政権下で親衛隊はオルタリア自治区を殲滅した。だが、彼ら

は7つの核を爆発させ、自分から星の片隅に立てこもったのさ。彼らはガミラスの中枢に食い込み、内部対立を煽った」

「まさか」

「今頃、北のガミラスメリアでは、ガメリアが首都を奪還すべくガストバキアと戦っているころだろ。ペイバックタイムだとか言いながら。でも、それは全部陰謀なんだ。破片の落下に乗じて対立を煽っているのだ。本当ならガミラス全体が協力しながら対応することもできたはずだが、彼らが疑心暗鬼を植え付けたんだ」

「なぜそれをおまえは知っている」

「オルタリアの技術で俺は電子化されたからさ」

「まさか」

「そうさ。オルタリアの民は電子化されてみんな生きている」

「なんてことだ」

「ではお喋りは終わりだ」

「ガビウス!」

「撃て!」

最後の大空戦が発生した。

伝説に残るような壮絶な戦いだったが、そこにはそれを伝える者は残っていなかった。

戦いはヤマキの勝利だった。

死すべき体を持たない者は弱かったのだろう。

だが、戦争の真実を伝えようにも、司令官はオルタリア残党の息が掛かっていた。

奪ったβ号でヤマキが行き着いたのは、パイロットを失い、北の海で用も無く係留されていた旧式空母ガミラストレルだった。

陰謀の主達が、「ああ、君たちがこんなにはできるとは思わなかったよ」と言いながら退場していくには、まだ、しばしの時間を要した。

終わり

## 解説

本作は、ヤマト 2199 の世界に ACE COMBAT 3/ 04/ 5/ 6/ ZERO/ INFINITY のストーリーを当てはめて書かれている。基本的に ACE COMBAT の名台詞が使用されている。従ってヤマト 2199 には存在しない AWACS が登場する。ただし、第 3 章の最後だけはヤマト 1974 のナレーションを使用している。

アイデアの起点は、ヤマト 2199 において破壊された 633 工区と第 2 バレラスの破片は降り注いで災厄をもたらすはずだというものだ。その災厄を ACE COMBAT 的なユリシーズの災厄になぞらえて書かれている。

もう 1 つ好ましい特徴は、ガミラスの地上に惨劇をもたらせることだ。悪の帝王デスラーがいなくなってガミラスは平和になりました……というヤマト 2199 の物語は嘘くさく、実際はもっと悲惨でドロドロの世界が現出するであろう……という意図の良い表現になるはずだと思ったからだ。特に、ヒスが良い人になりすぎて違和感が大きいので、あまり良い人に見えないように書かれている。

ガミラスに残留するヤマキは、ヤマト完結編に登場するコスモタイガー山木隊の山木からもらった名前だ。ヤマトのパイロットらしい名前だが、ヤマト 2199 には出てこない名前として選んだ。

ガミラストレルの名前はガミラスとケストレルの合成造語だ。もっと軍艦の名前らしい名前にしなかったのは、意味が読み取りにくくなるからだ。

ちなみに、パイロットを失ったガミラストレルにたった 1 人で残っていたパイロットの名前はスノー大尉といいパイロットの森雪であるという裏設定も考えたが使っていない。TAC ネームは SWORDSWOMAN である。

オルタリア人が復讐に来るという設定は、あれだけやられても生き残る者はいるはずだし、彼らが怒りに我を忘れてもおかしくないと思うからそう設定した。オルタリア人がサブリーメーションの技術を持っているか否かは知らない。

チルトローター機をへりと言っているのは、ACE COMBAT 04 の台詞通りである。その他に特に意味は無い。

以上

## 遠野秋彦作品宣伝 2015/4/20 版

### マル計画ロボット第2号【Kindle版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00V8JT3UK/>

時は 2015 年。正義をなすために作られたロボット、マルコはテロ組織の都市を破壊した。だが、被害を最小にするためには最善だったと主張するマルコの主張は受け入れられなかった。都市にいた手テロ組織とは関係ない人々を殺すことは社会が許容しなかったからだ。そこから真の正しさ、真の降伏を求めるマルコの長い旅が始まる。やがて、コロッサ計画のロボット、コロッサスがロボットだけの理想郷を作ろうと決起した。はたしてマルコがロボットの側に立つのか。それともマルコの正義を承認しなかった人間の側に立つのか。そもそも、この話はジェッ〇ーマルスなのか、鉄腕ア〇ムなのか、それとももっと別の何かなのか？

### 父殺し戦争【Kindle版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00OJYDYBU/>

オランダ第2王子ジョークオル・グレスフォは実は女だった。父親の身勝手に男として育てられていたが、ジョアンナと名を変え、女性として別の星の大学に留学していた。

だが、ジョアンナには秘密があった。長年、男だという欺瞞を貫き通してきたジョアンナは男と恋をすることも許されず、いつの間にか獣や異星人しか愛せない体質になっていたのだ。

女なのに男扱いされることに嫌気が差したジョアンナは、留学生のタバチーネ人ドッチーと駆け落ちし、宇宙船プレアデス III で勝手気ままに旅に出た。

ところが、彼らの前に謎の脅威が出現した。

人類を創造したホモ・スペリオールは、密かに人類を去勢して滅ぼす計画を立てていたのだ。ジョアンナは、人類去勢計画を叩きつぶすために実家の兄に連絡を取る。

「オランダ軍の2号反応爆弾を1つ。理由は聞かずに調達してください。兄上の力があればできるはずです」

だが駆け落ちして家出した妹の頼みは聞き入れられるのか?

本当に人類を創造するほど優れた者達に勝てるのか?

オランダの王室に存在しないはずの【皇帝】という肩書きを名乗る人物が出現し、謎の【監視者ファミリー】が暗躍して、ジョアンナを破滅に誘う。

ジョアンナは最後まで降参せず、ぎりぎりの矜持を貫けるのか!?

ホモ・スペリール惑星の惑星破壊ビーム砲台から放たれる超長距離狙撃が人類の居住惑星を次々と破壊していく中、はたして人類に起死回生の策はあるのか?

### アニー・ザ・ピアン・キューティール 【Kindle 版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00OJYDW8A/>

レズビアン、世界征服、キューティール・〇ニーという 3 大キーワードを与えられて作者が渾身で挑む問題作。

内蔵された愛情回路に強制されて戦う愛の戦士の悲しい宿命。

レズビアンの巣窟、全寮制、男子禁制の学園に送り込まれたアニーちゃんは男を忘れてしまうのか。

仮面の忍者レッドは敵か味方か。はたまた男か女か。

たった 3 分しか維持できない筋力強化でアニーちゃんは世界を守れるのか!?

アニーちゃんに内蔵された空中【幻想】固定装置を敵から守り抜けるのか?

そして、アニーちゃんの死んだはずのパパが!

### 人造人魚 【Kindle 版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00L9D496S/>

コジフ商会のキア・コジフは姉の代理で商談をまとめてきた。しかし、正体不明の MMM という商品が含まれていることに不信を感じた。そして商談の帰路に嵐に巻き込まれた。濁流のクライン川にちらりと見えた人魚はいったい何か。そして、キアは女装のメイドに招かれるままにエム・エムエ幻想国のズィン科学侯爵の屋敷に立ち寄った。だが、その屋敷こそが

謎の商品 MMM の製造場所であった。はたして、こっそり製造されている MMM の正体とは人魚なのか。誰が何のために人魚を求めるのか。そして、河の中に見えた人魚の正体は？ 屋敷の入口にある肖像画の主であるゾ・フィーネという女性はどこに消えたのか？ 謎が謎を呼ぶエロティック幻想物語。

そして、屋敷の謎を解いたキアが選ぶ驚きの選択とは？

君の五感と股間を刺激する！

### コードネームはサターン V 【Kindle 版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/gp/product/B00L5L4Q2G>

謎を提示するミステリアス小説。解くのは君だ！

独身中年男を心配する親からの依頼で、一人暮らしのダメダメ変態マニア男、佐藤有紀を監視する探偵の鞍馬七郎の物語。

そして、高級マンションで優雅に暮らす佐藤有紀が、セーラーレオタードで美少女戦士に変身して人知れず侵略者と戦うサターン V の物語。

どちらの物語が事実なのか。はたして、佐藤有紀の正体はダメダメ変態マニア男なのか、侵略者と戦うスーパーヒロインなのか。

謎の女、SOS のナナコの正体は、探偵鞍馬七郎の変装なのか。それとも、佐藤有紀をスカウトに来た銀河連邦の宇宙警察機動軍なのか。

矛盾をはらんだ物語が読者を迷宮に誘う。

真実はどこにあるのか。

結論は本文のどこかに書き込まれているぞ。

それを探す冒険物語の第 3 の主人公は読者の君だ！

### ミルクボーイ 【Kindle 版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/gp/product/B00L9D48WI>

世界は核のスイッチを持つ巨大な 9 人の赤ん坊に支配されていた。

そして、彼らに飲ませるため、教室で搾乳する少女がいた。だがクラスメートは彼女に無理解だった。丹生川タクミは彼女を守るために立ち上がった。

ところが、支配者の 1 人、ホモ疑惑がある七試が男ミルクを所望したこ

とで、話は急転する。タクミも男ミルクを下半身から搾乳される立場になった。

授乳特選隊に入隊したタクミは驚愕の事実を知る。それまで女性隊員しかいなかった極東支部には、女性用の制服しなかったのだ。似合わない女性用制服を着て七試と面会するタクミ。しかし、七試はそれを喜んだ。

はたして、七試はホモなのか？

そもそも、巨大な赤ん坊ベイビーズとは何か？

テロリストに襲撃され、配下のスタッフを多数殺された七試は、怒りに狂っておしゃぶりに偽装した核のスイッチを押した。

はたして、世界は9人の赤ん坊の気まぐれで滅びるのか？

人類は生き延びることができるか？

結末を予測不能の幻想未来冒険譚が始まる！

**リバーシブル【Kindle版 (Amazon)】**

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00GWYRVN2>

フォッカーD21で始まり Yak-3で終わるアンドロギュノスの物語。両性具有のセクシーなレースクイーンが、君を妖しく誘惑する。学園祭で模型飛行機を展示していると、ヨーロッパのマイナー機を展示している主人公に興味を示す美女。なぜ、ゴーカートレースの事故の原因を調べてはいけないのか。研究室に出入りする美少女大学生を SM ホテルに連れ込む教授は善人か大悪党なのか。愛する女性の淫らな光景を見ることしか許されない最悪のゲームに主人公は勝利できるのか！

NTR 成分もあるよ！

**リ・バース・リバーシブル【Kindle版 (Amazon)】**

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00GWYRZ56>

A-1 スカイレーダーで始まり、F9F パンサーで終わるアンドロギュノスの物語。両性具有の女子大生が、一家を襲う難事件に身体を張って立ち向かう。父親の女装ホモ疑惑を必死に解消したと思うと、次は母親の失踪が待っていた。熟女天然ふたなり AV 女優としてネットで晒し者にされる母

親は、本当に自ら望んでそうなったのか、それとも連絡の電子メールは母親を装った偽造なのか！ アンドロギュノスから生まれたアンドロギュノスの娘が、全ての謎に立ち向かう。

リバーシブルで広げた風呂敷を畳む完結編！ これを読まずにリバーシブルは終わらない。

(しかし、これ単体で読んでも面白いよ！)

## 異説太平洋戦争・美少女艦隊波高し！【Kindle 版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00FMWSBFW>

異世界に転生した主人公は少女の姿になり、帝国女子海軍長官の美少女山本に拾われ、山口と名を変えてイギリスで近代化改装を終えた戦艦比叡受領に向かう。だが、比叡の前には戦艦ビスマルクが立ちふさがる。山口は、大英帝国海軍すら手に余すビスマルクを倒せるのか！ そして、日本に帰国した山口を待っていたのは、帝国の女子海軍人気に対抗して機動部隊の指揮官に就任した巨乳の美少女乳牛ハルゼーだった。帝国海軍の主力戦艦群を壊滅させた乳牛ハルゼーに、山本、山口以下の女子海軍はどう立ち向かうのか！

艦これブームは遅すぎる。美少女+軍艦ものの元祖、1998年に書かれた伝説の小説のリバイバル再刊！

## 全ての物語に終止符を打つ最終英雄ドリアン・イルザン【Kindle 版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00EN7GIPC>

石屋の武器店の息子、ドリアン・イルザンは、世界の外から来たという宇宙船を偶然見つける。宇宙に乗り出したドリアンは、太古の世界が作り出した神にも等しい力を持つ2つの人形、アリシアと悦人形の対立に巻き込まれていく。アリシアはドリアンに不思議な力を持つレンズを授け、全ての物語に終止符を打てと言われるが、見たことも聞いたこともない物語の数々を前にドリアンは途方に暮れる。アリシアと悦人形による神々の最

終戦争をアリシアの最終英雄ドリアンはどう決着させるのか。そして、悦人形の最終英雄、ウォー・ゼロはドリアンへの敵なのか。伝説の宇宙船スカイラークはドリアンをどこに連れて行くのか。超銀河団の泡構造の向こう側に進出した超大陸級戦艦ユーラメリアは大空洞の果てに何を見つけるのか。

これは最後に読む物語ではない。

全ての始まりの物語なのだ。

読むならここから始めよ!

### ラト姫物語【Kindle 版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00DTMCNHE>

太古の失われた文明の時代、みなしご少女ラト・ワーゲルは小国ラルナの姫君であるミラ姫に見初められて、妹として宮廷に入る。だが、レズビアンへの愛人として囲われると思ったラトは予想に反する過酷な王宮の現実を知る。虚実の陰謀が飛び交う王宮で、ラトはミラ姫の知恵袋として破格の活躍を示す。しかし、宇宙機動遊撃軍キダシへの参加要請が届いたことで、予想もしない方向に事態は進んでいく。ラトは、宇宙艦隊の指揮官として人類を滅ぼそうとする宇宙生物ハドと立ち向かうことになる。

そして侍女志望のマイアが適性試験で見せられた異星生物の触手に身体を犯されるラト姫の姿は真実なのか!

そして、敵に掴まり、淫らな宣撫映像に自ら望んで出演するラト姫の真意とはいったい!?

### セラ姫物語【Kindle 版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00DTMCWD4>

普通的女子高校生の星良は、ラト姫の娘、セラ姫として謎の少年から声を掛けられる。しかし、星良は宇宙から来たラト姫などと言う嘘くさいトンデモとは縁が無かった。ところが、詳細を確認しようと図書室で調べ始めると、ラト姫関連の資料が何も残っていなかった。マスコミであれだけ

騒がれたはずの情報が何も残っていないのはおかしい。星良の真実への探求が始まる。

そして、星良の破滅願望を満たす転校生の出現。星良を校内娼婦に仕立て、破滅へと導く少年。少年はハドの探査プローブと名乗るが、ハドとは人類を滅ぼそうとする宇宙生物の名前ではなかったのか。そして、喜んでその破滅に身を委ねる星良。はたして、破滅願望を持つ星良の破綻した性格はどこから来たのか。父か、母か、それとも……。

ラト姫物語で広げた風呂敷を畳む完結編！ これを読まずにラト姫物語は終わらない。

(しかし、これ単体で読んでも面白いよ！)

## 魔女アーデラの事件簿【Kindle 版 (Amazon)】

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00DIQUFFS>

剣と魔法のファンタジー世界で起こる奇怪な事件。王宮から盗まれた等身大美女フィギュアを奪還すべく、王宮シーフのマールは調査を開始する。しかし、彼に付けられた相棒は、どんな男でも関係無く喜んで抱かれる淫らな美少女魔女アーデラ。はたして、二人は事件の真相を暴き、犯人を捕まえられるのか？ だが、アーデラには見た目通りではない重大な秘密があった。そして、マール自身にも隠された重大な秘密があったのだ。はたしてアーデラは GM なのか。けして自ら語らないマールとアーサー王の秘密とは何か。互いの秘密を知った時、二人は最強のタッグになる。

モンスター討伐がほとんど出てこないファンタジー推理小説！

君は腕力では無く知力を試される！

## ファンタジー勇者伝説

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00CWZTU5W>

君は知っているか！ 勇者の伝説を！ このファンタジー世界で辺境の魔王から姫を救った勇者の伝説を！

だが、王宮侍女のジーナは、その勇者の子孫ファッツ・ブレイブと知り合うことで、真実を知ってしまう。次々と明かされる驚愕の真相。辺境の魔王など存在してはいなかったのだ。そして、伝説の勇者とは、魔王と倒したのではなく、幼なじみの侍女を追いかけて隣国に旅した者に過ぎなかった。

勇者の伝説そのものが単なる虚構、つまりファンタジーに過ぎなかったのだ!

ジーナは叫ぶ。

一代で成り上がった新興商人の娘をなめるな!

彼女は、根性で古き因習に立ち向かい、隣国に連れ去られたプリマ姫を奪還できるのか!

イーネマス! 【全編(完結)PDF版】

[http://www.dlsite.com/maniawork/=product\\_id/RJ039225.html](http://www.dlsite.com/maniawork/=product_id/RJ039225.html)

イーネマス! 【立ち読み版(全16章のうち第5章まで。無料)PDF版】

<http://ura.autumn.org/Content.mod?id=2008042800000>

若くして死んだ有望な者達を、未来の火星の地底世界に転生させる来人制度で、同人誌即売会専用バスで死んだオタク達が転生させられた。自ら望んだ新しい身体をもらえるとあって、ある者は格闘ゲームのキャラの身体をもらい、ある者は美少女戦士の身体をもらった。しかし、浅岳はあくまで自分のありのままの身体で若返りだけを望んだ。そして人気同人漫画家の沢渡勇太は自分でデザインした究極の美少女に身体を得ることを選んだ。二人は、火星の地底世界イーネマスに出て行くが、あっさりと人身売買される対象になり、バラバラに売られていく。

そして、浅岳が出会ったのは孤独な幼い姫君だった。

そして、沢渡が出会ったのは、奥行きを把握させない謎の犯罪組織の幹部だった。

二人は、それぞれの立場で、イーネマスを壊してしまおうと画策する破壊趣味者と戦うことを決意する。

同時進行で、幼い姫君とのストイックなラブストーリーと、あらゆる快楽に浸る淫らな TS 美少女ストーリーが同時に進行する。

はたして、浅岳は自力で奴隷の身分を脱すことができるのか!?

はたして、沢渡は性奴隷からお屋敷のメイドを経て大商人の奥様に成り上がれるのか!?

二人が再会する日ははたして来るのか!?

オタクの夢、最強の格闘キャラの身体を手に入れた男は火星の地底世界で成り上がることができるのか!

TS 成分、女装成分もあるよ。

宣伝終わり